

ちば里山新聞

(第2号)

編集 発行 ちば里山センター
 袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148
 電話 0438-62-8895
 題字 倉島 貴浩
 (ワークホーム里山の仲間たち)

里山から培う元気なふるさと市原づくり

市原市長 佐久間隆義

里山フォーラム
IN ちば

静かに目を閉じると浮かんでくる風景があります。

小鳥たちがさえずり、キノコや山菜採りに夢中になった山々、そこに咲く様々な花、谷津田のそばの清らかな流れ、たなびく炭焼きの煙など、四季折々に自然と人が織り成す、山を中心とした地域全体の原風景が、私は、まさに「里山」そのものと思います。

里山は、薪や炭などの燃料、堆肥、食卓にならぶ食材の宝庫として、ごく自然な形で誰もが慣れ親しんできた生活の場として、ふるさとの個性や文化を育んできました。

さらに、子ども達にとっても、身近な囲いのない自由な遊び場であるとともに、命の尊さや生きる知恵を直に学び育てくれるフィールドでもありました。

落ち葉がジュウタンのようにきれいに敷き詰められた林の中を駆け回り、川では泥んこになってドジョウやフナなどを捕まえ、共に歓声を上げたことをつい昨日のように思い出します。



佐久間市原市長

また、今はもう日本の自然界では見られなくなった「トキ」が昭和20年代には市原に飛来していたという記録もあり、温暖な市原の里山はトキなどの動物にとっても住みやすい環境であったに相違ありません。

しかし、高度経済成長の時代を経て、このような環境は大きく様変わりしてしまいました。市原市では、急速に都市化が進み、市民の生活様式や就業の形態も変化し、この結果、山林や田畑の荒廃が目立つようになりました。私たちは、豊かさの代わりに、何か大切なものをどこかにおき忘れてきてしまったような気がしてなりません。

そして今、忘れものをさがすかのように、ふるさとの再生に立ち上がった市民や企業、NPO法人が増え続けています。とても素晴らしいことだと思います。その活動は、森の手入れや炭焼き、自然観察、環境学習、健康づくりなど、スローライフにふさわしく多彩です。里山の復活を進める上で、一番大切なことは、人が入らなくなって久しい里山に、自然のリズムの中で人々を招き入れることにあるものと考えます

目をこらせば、市原市には、水と緑の豊かな自然がまだ沢山残されています。21世紀を迎え、これらを保全し、最大限に活用したまちづくりを推進することで、市内はもとより、首都圏各地とも交流が深まり、まちに「やすらぎと活力」が生まれるに違いありません。

本市では、広葉樹の茂る市有林の整備をはじめとして、自然の恵みを活かした農林業の振興など「地産地消」

を積極的に推進しており、自然薯、椎茸、銀杏など、里山の産物や美味しいお米が直売所などで人気を呼んでいます。

また、生産から流通、販売、消費に至るまでの新たな資源循環の仕組みづくりにも着手し、市原産の木材を有効活用する「ふるさとハウス」の研究や市原の里山産の米粉で焼いた「もちもちごパン」の開発などユニークな取り組みも進めております。

このような地域に根ざした人にやさしい施策を通じて、荒れた山林や田畑に新たに人の手を入れ、里山を再生したいと考えておりますが、このような施策の推進は、行政だけでできるものではありません。農林業に携わる方々はもちろんのこと、企業を含めた市民一人ひとりが楽しく関わっていただけることが最も大切であると思います。

折りしも、千葉県では、平成15年5月に全国に先駆けて里山条例を施行しました。さらに、平成16年9月には、「ちば里山センター」を設立して、里山で活動している市民、団体、企業など様々な立場の人々が交流し、一つの大きな力となって活動する拠点をつくられました。本市でも里山活動を行っている市民や団体が会員として多数参加しています。

市原市では、これからも、千葉県、ちば里山センターなどと連携を図りながら市民とのパートナーシップを基本に里山の再生をさらに推進し、元気なふるさと市原を築いてまいります。

里山の持ち主さんたちの声

日々の暮らしとともに、里山の移り変わりを見つめてきてきた里山の持ち主さん。

循環型社会の構築が求められている中で、里山が持つ良さに魅了され、自主的に森の手入れや谷津田環境の改善、心身の健康づくりなど、いろいろなかたちでの市民活動が盛んになってきていますが、持ち主さんたちは、どんな思いをしているのでしょうか。

千葉県は、人と自然との調和が織り成す里山を、みんなの力で未来に継承（つな）ぐため、平成15年5月、全国に先駆けて「里山条例」を施行しました。この条例では、里山の持ち主さんと市民等の皆さんの双方が安心して活動に取組めるよう、「知事認定の里山活動協定」という仕組みを設けています。

今回、森林所有者であり、知事認定第1号の協定を締結した佐倉市岩富の石渡 敬さんと、谷津田の所有者であり、自らもその活用や森の手入れに取り組み香取郡多古町染井の所 英亮さんのお二方に、生まれ育った里山での暮らしを振り返りながら、その思いや願いを語っていただきました。

★里山の昔は、きれいだった

いしわた けい
石渡 敬(日本弘道会 佐倉支会長)

1 農家の人は、田や畑の仕事が終わるのを待って、われ先にと山に入った。その仕事というのは、

- (1) 下草刈り
- (2) 松の枯れ枝かき(かれっこかき)
- (3) 下草と落ち葉を集め、束ねる(くすまで)
- (4) くすを小屋に集める

これが、農家にとって1年分の炊事燃料となる。山の仕事が終わるのが1月末。従って正月は2月。月遅れの正月というのは、昔の農家にとっては恒例となっていた。

このように、山の仕事は、昔の農家にとって生きるための燃料確保の為であった。結果として、里山がきれいになっていた。

2 きれいだった里山は、松の古木を育て、米どころ「岩富千石」をも育てていた。

(1) 林立した松の雄大な姿は、根元に咲いたシュランの花、ヤマユリ、エビネの群生とともに、幼い脳裏に焼きついて離れなかった。また、キノコも豊富にありました。しかし、その松は、今次大戦の末期「山の召集令状」を受けている。今の杉は、第三世に当たる。

(2) 「岩富千石」は、豊かな里山に生まれ米どころとして、永く堀田藩を支えてきた。

「郷倉(ごうくら)」という地名は、殿様用の美味しい米を貯蔵した処。美味の秘密は、粘土質の谷津田ときれいな水の織りなす所産。

3 里山が荒れ始めたのは、農家の人が炊事用の燃料を山に頼る必要がなくなったからである。プロパンの普及という燃料革命の煽りをくったからだ。

私が、佐倉小学校の校長職を最後に退職した後、山に入ったのは、荒れた山のこと心配になったからだ。

しかし、ジャングルとの戦い、1年でダウン。早々、県の普及員に相談したところ、流石、県が紹介してくれたベテランの人たち。忽ち山がきれいになった。しかし、費用は全額自己負担。支払った手当て64万円。

当惑の2年が過ぎた頃、県の普及員から、当時、県が創設した「みどりのボランティア登録制度」を利用してはどうかとの助言を受け、素人で大丈夫かと心配したが、早速お願いすることとした。

なお、この登録制度は、千葉県が千葉県緑化推進委員会に事業を委託し、森の手入れをしたいと希望する人たちを予め登録し、実技研修を兼ねて実際に作業するもの



築184年の自宅にて思いを語る石渡さん

である。この制度を利用してボランティアに開放したのは、私が初めてであると聞いた。

4 荒れ果てたわが里山は、見事に蘇ってきた。

(1) これも、あの時のボランティアさんたちで、その後も継続的に私の山のために何度も汗を流し、その中で互いに気のあった人たちを中心に結成された「さくらグリーンクラブ」の皆さんのお陰である。とりわけ、河口烈代表、乗松孝子及び深見博の各副代表、高橋順子事務局、森本敬一監事をはじめ、子どもも連れて参加している会員の方々の献身的な奉仕には、心から感謝している。

(2) さくらグリーンクラブの皆様から頂いた有難い言葉には脱帽。

- ・私は山が大好きです。
- ・この山は石橋さんの山かもしれませんが、日本の財産です。
- ・里山が、きれいになるのを見るのが、私たちのこの上もない喜びです。

5 全国に先んじて烽火をあげられた県ご当局への要望として、「期待される里山施策の全貌・全体像」を是非ともお示し下さるようお願いすること切である。



手入れが進む佐倉市岩富地区の里山

★桜宮自然公園の実践と谷津田の活用を図るための提案

ところ えいりょう
所 英亮 (桜宮自然公園をつくる会副会長・元多古町農業委員会会長)

遊休農地の解消をはかることは、農業委員会にとって重要な課題です。放っておけば産業廃棄物の処分場などとして狙われやすいからです。

そこで、地域の谷津田と雑木林を合わせて尾瀬のような湿原をイメージして自然公園としてはどうかと2001年9月頃、農業委員会で長年温めていた構想を提案し、いまいった条件のあるような地域で、自然公園づくりに取り組もうということになりました。

その結果、話がまとまったのは私の地域です。谷津田と斜面の雑木林併せて約5ヘクタール(50,000平方メートル)を利用して「里山自然公園」にするという構想で、谷津田の地権者が発起人となり、つくる会を組織しました。

このような動機で始めたことから、住民参加の町づくりを基本として推し進めることとしました。

作業は月1回のペースで始まり、着手した11月には、住民50名が草刈り機や鎌を持って集まりました。この中には、町長さんもいて、草刈り機を持って一緒になって汗を流しました。参加した住民の意気込みは凄いが、その様子を見ていた私は、此処に自分たちの憩いの場を造り、きれいすれば、環境も良くなり、産廃もやめさせられる力になると強く感じました。

こうして、6ヶ月で延べ250人が参加して自然公園の竣工式を皆で祝ったのです。この間に、つくる会は町長、議員、農業委員とともに、千葉県立中央博物館に行って谷津田の歴史、生態系、水質浄化に重要な役割を果たしていることを学びました。

このような活動を続けることにより、自然公園として谷津田を復元することは、地域の環境を守る生態系や川の汚れを浄化する役割を担っており、米生産の役割は、少なくとも地域環境を守る上で大きな貢献をしていることが解ってきたのです。

谷津田をどう活用していくかは、里山保全を進めていくうえでも里山の中心になっている谷津田らを正面から取り上げることが大きな課題であり、谷津田の活用を考えることは、行政でも農業団体でも何処でもなかったのです。そのため、30年余り減反政策によって谷津田は荒れているものだということが当たり前になり、農地であるという意識が薄れ、産業廃棄物の不法投棄が行われ、あるいは処分場として利用されるようになりました。

地権者にとっても、荒廃した谷津田は減反の実績を上げるだけで、収入は何もなく、農地として無用な存在になっているのが現状です。また、農業委員会も、遊休農地の具体的な活用対策を示すことに苦慮しているようで、



地元の収穫祭で展示発表する所さん(右)
左は佐野会長

その解消は課題のままとなっています。そして、不法投棄があったときに、現場に行って「農地法に違反していますので、現状回復して下さい。」と、指導することで精一杯のようです。また、市町村も谷津田での減反の確認はしますが、財政も伴うことから、それ以上話が進みません。

「里山条例」が施行され、里山センターが設立したことにより谷津田を自然公園のように湿原、池に活用する相談が持ち込まれるのではないかと、里山センターの活躍を期待し、次のような提案をします。

記

- 1 荒廃した谷津田は、田んぼになる前の湿原の状態になっている。これを生かし、斜面の間伐材を利用して散策道をつくり、自然観察の場として活用する。
- 2 谷津田に多様な池をつくり、住民の憩いの場とする。

例えば、

- ・ カヌーやボートなど大池
- ・ ピオトープ
- ・ 野鳥観察池
- ・ 鯉、錦鯉、カニ、タニシ、ドジョウの養魚池(生産調整で認められている)をつくり、トキやカモなどに餌を供給する場をつくる。

以上、里山保全に取り組む里山活動団体が増えることを期待し、谷津田の活用を図るためのたたき台として提案するものです。



谷津田に水を張った桜宮自然公園

県立高校の入試問題にも「里山」が登場

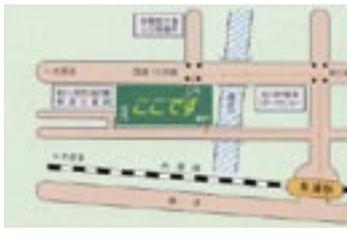
平成16年度千葉県立高校の社会の入試問題で、里山のことに触れた問題が出題されました。

1 次の文章を読み、あとの(1)~(3)の間に答えなさい
 現在、地球上では多くの森林が消失しています。しかし、一方では森林再生の取り組みも行われています。日本では、国土緑化運動として全国植樹祭が開催されており、^a 昨年は千葉県で行われました。また、千葉県はこの年に都道府県として初の里山条例をつくり、^b 豊かな環境づくりをめざしています。
 (注) ^c 里山とは、人里近くであって人々の生活と結びついた森林とその周辺の草地、湿地などのことをいう。

PRコーナー

ちば里山センター

会員数 90 とうし力を合わせ わっしょい



里山センターの事務局は、JR 内房線長浦駅より木更津寄りに徒歩7分です。緑豊かな環境に囲まれ、カワセミやカニも訪問します。皆様のご来訪をお待ちしています。
 電話：0438-62-8895

里山1日活動体験

地元ロータリークラブ、留学生、ご近所の皆さん集まって「はいチーズ」



外国人留学生と一緒に秋の里山で千年の森づくり(千葉市)



本物？ シュロの葉でバツタづくり

アカガエル、タニシ、ゲンゴロウ・・・

初冬の里山で自然観察とクラフト製作(千葉市)



何か体が軽くなった感じ・・・

健康づくり散歩で森林療法研究に協力・ただ今効果測定中(君津市)

里山の達人と一緒に森づくり

安全に作業をやるには・・・



熟練した森林組合員の指導で初心者も安心(和田町)

里山での体験型イベント参加者募集中【無料】

- ◆2月5日・子どものための体験教室(船橋市)
- ◆2月27日・達人と一緒に森づくり第2弾(和田町)
- ◆3月6日・森の古道散策—飯高檀林—(八日市場市)

事前申込必要、希望者は里山センター事務局まで

会員を対象とした研修会

- ◆名人に教わる刃物砥ぎ2/11(神崎町)・3/12(山武町)
- ◆救急救命士に教わる救急への対処2/20(袖ヶ浦市)